



ごあいさつ

代表世話人 越島陸雄

晩秋の候、みなさまにおかれましてはいかがお過ごしですか。
台風の被害などにあわれました方々にはお見舞い申し上げます。

令和2年度の拡大教科書の依頼はどうでしょうか。小学校は大改訂の年になり内容も少し変わっているようです。デジタル教科書対応になっているのでしょうか。拡大教科書を巡る環境も大きく変わってきています。デジタル教科書が弱視児童生徒にとって使い勝手が良い物と信じていますが、紙教科書の拡大版を必要としている人がいる以上、製作するボランティアの存在が大切です。



全国拡大教材製作協議会が今後どうあるべきかについて、たくさんのご意見を頂いていますので、会報11月号に掲載させていただきます。

平成から令和にかわり、教科書もデジタル教科書となっていくなか、どこまで対応していただけるか皆様と知恵を出し合って頑張っていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

拡大世話人会（仮称）に出席して協議会について考える

拡大写本ボランティアグループ「のあざみ」吉田尚子

拡大写本は弱視の方の為の活動ですが、老眼の方や学習障害の方の為にできることがあるのではないかと以前から思っていましたので、既にそうしたお子さんの教科書の全ての漢字にルビを振ったり、分かち書きをしているグループがあることを知り参考になりました。

弱視ではなくても文字の読み書き学習に著しい困難を抱える障害(デスクシア)の方のことが多くの人に認知され、拡大写本ボランティアの私達が寄り添えるようになればいいなと思えました。

下丸子拡大写本研究会 田崎かほり

10月の協議会に初めて出席しました。内容はそれ程難しい話ではなく、改めて協議会が抱えている問題点や、拡大写本に求められている事が今までよりももう少し見えてきた気がします。私にとっては全国協議会という所がとても敷居の高い所のように思っていたのですが、実際に出席してみるとそんな事はなかったので、他の会員の方々ももう少し積極的に出席して下さればもっと幅広く人材を得られるのではないのでしょうか。

個々のボランティアグループではクリアできない問題でも、多くの方々と連携する場があれば解決出来る事もあるように思います。そういった意味でも全国協議会は必要な組織だと感じました。

拡大写本ルーペの会 奥野信子

まず思いましたのは、全協協を存続させたい、させなければならないということです。今までも、

我がグループにとっても絶対に必要と思ってきましたが、拡大写本を利用される方にとってこそ必要という思いを新たにしました。

10月の世話人会で、「発達障害の方への拡大写本の提供の話が増えているが、解決していかなければならない問題点もある。弱視の方への拡大写本の提供が整いつつある今、次は、発達障害の方への拡大写本の提供について勉強し整備していきましょう。」という話題がありました。今の拡大写本を取り巻く状況を共有できる大事さ、有難さは、会に参加したから得られたのだと思いました。

坂戸拡大写本の会 代表 秋山清志

全国拡大教材製作協議会は、拡大教材を必要としている全国の児童・生徒のために、今後も継続的活動が必要と思います。

さて、拡大世話人会に出席しましたが、全国組織であるが地理的条件から一部地域からの世話人の活動に頼り切りになっていることの現状はやむを得ない一面もあるものの、加盟各団体は受け身に終始せず、世話人を多くの団体で支持する必要を痛感しています。

そのためには、せめて1都3県の各団体が交流を持ち、意見を交換するなどして世話人会を孤立させないよう支えるためにも拡大世話人会を継続すべきです。

また、遠方の団体においては、関東に旅行などの際に日程が合えば拡大世話人会にご出席されるよう会議予定をホームページ掲載ではなく、全国の団体にメールで直接かつ速報的に流してはいかがでしょうか。

世話人会の結果はホームページに掲載されていますが、開かれるという情報を各団体に直接知らせることによって世話人会の活動・全協協の動きに目が向くことでしょう。

平塚点訳赤十字奉仕団 拡大図書部 永井博子

今回、全国拡大の会議では様々な議題がありました。中でも「ディスレクシア」です。「拡大」をしているはずの私たちの所に拡大とは毛色の違った事柄が入り込んで来ている。学習障害等々、耳にはしていません。これまで「拡大」には関わりないとばかりに頭の中から追い出していましたし、幸か不幸か今まで私どもの団では関わることはありませんでしたが、「他団ではこうした事柄にも関わりを持つ状況にあるのだ、流れが来ているそうですよ」という現況を団員に知らせたいと思いました。参加してみると様々な事に無関心であったことなどを知る機会であり、他団と関わり合える機会ともなるのですがどうやら全国拡大の定例会開催は「水曜日」で私たちの団の活動日と重なり出席しにくいのですが、近隣にある団なのでできるだけやりくりして出席したいと思っています。

「全国拡大教材製作協議会これから」 赤いくつ 付岡博子

世話人会に何回か参加して、思っていた以上に考えなければならないことが沢山あると感じています。皆さんと直接顔を合わせて話しをしている時は具体的な考えも出てきますが、新しい世話人だけで活動をしていくというのはまだまだ先にあります。会員皆さんで考えていく必要があると思います。(1都3県だけでなく…)

活動の整理：世話人がすべきこと、今までしてきたことをきちんと1. …、2. …、3. …のように具体的な整理が必要だと思います。しないと進めません。現在の世話人の方に伺っても「難しいことはないのよ」と言われるだけで、何かはつきりしません。ぼやけています。現在の世話人の方には改めて今までの活動を通して意見・考えを書き出して欲しいと思います。

世話人の人数：現在は欠員があり 7 名ですが、1 都 3 県の皆さんで進めていくとなれば 26 名。そのグループの中で「どうしても出せません」ということであれば「無理強いはしたくない」という意見もあります。それでは人数が決められません。勿論グループにはそれぞれ様々な事情があると思います。たとえ世話人が 26 名参加となっても大所帯過ぎて作業部会方式などを取り入れなければ活動が今一つ見えてきません。

代表の役割：現状を聞いてみると、文科省などからの連絡はほとんどが代表に入ります。ほぼ代表の判断で会員の皆さんにメールなどが送付されています。本当に緊急事項でない限り急な参集は無理だと思えます。そこでメールや電話での会議となります。これにも課題が残ります。やはり代表に多くの負担がかかることとなります。このことから「世話人になれません」が多くなるのだと思えます。

このように、どのようにしたら協会がスムーズに流れるのか難しいことばかりです。でも私たちはボランティアグループです。困っている児童のためにという気持ちは皆さん同じだと思います。だからこそこの会を失くしたくないという要望が多いのだと思えます。

拡大世話人会（仮称）を 2 回開催しました（世話人から）

「世話人会」はグループの代表者会議でもなく、個々人の主体的な参加で運営されるはずが、いつのまにか『おまかせ』状態になっている状況ではないでしょうか。「全国拡大教材製作協議会」を存続するためにも、2019 年 9 月の「世話人会」から、4 都県のグループに参加を呼びかけ、20 名程度のメンバーで情報交換をはじめました。

弱視やその他の障害等での拡大教材の取り巻く環境の変化は著しく、今後の活動において共有しなければならないことも増えています。活発なご意見を期待します。

豊島区立中央図書館ひかり文庫拡大写本グループ 山本裕美子

拡大教科書の無償給与の対象が厳密に弱視児童生徒と限られていたところから、条件を整えば学習障害の子どもの中にも適用される様子が見えてきました。世の中の変化の中で、拡大教科書の新たな役割を全国のグループに発信し、情報を共有していくことも、拡大協に課せられてきたのかと思います。先日の世話人会で、手書きのグループがまだ多いことも知りました。拡大協の活動に積極的に参加して欲しいと思っています。

下丸子図書館拡大写本研究会 猪狩美知子

9 月、10 月の定例世話人会には、世話人以外に、それぞれ 9 グループが参加して、世話人の一人として本当にほっとしました。直に顔を合わせて情報や考えが交換され、協議会の未来が少しはつきりしてきたように思います。私のグループは、会員数が極小。今年度から教科書や副教材の製作をやめましたので、世話人であることで得られる情報を生かせず、もったいないと思っています。他の世話人のグループの持つエネルギーから刺激を受けることが多いので、ぜひ、一度でも、世話人会へご出席下さい。



浦和拡大写本の会 播磨幸子

高齢化やパソコンが使えない等の問題で、会員が減少し、脱会するグループもあります。又デジタルは、眼が疲れるから紙の教科書を選びたい、との声もあります。デジタル教科書と紙の教科書。大切なことは変わらないと思います。これからも子供達を応援する拡大教科書製作グループであり続けたいと思います。

大宮拡大写本「銀のしずく」 山本 尚子

世話人会の仕事が見えないということはよく聞きますが、各グループを運営する仕事とあまり変わらないと思っています。違いは外部団体が文科省、教科書協会、AEMC 他などであること、メンバーが各団体であること、依頼の仲介はするが、実際に本を作るのは各グループであることぐらいでしょうか？今までしてきた活動は全て会報等で報告していますが何をしてきたかではなく、これからどのように協議会を運営していくかが問われています。情報や意見をできるだけ多くのグループから集めて方針や活動に反映させたいけれど少人数の世話人にお任せで、限界が見えてきました。試みに始めた拡大世話人会では、今まで聞かれなかった情報が集まりましたし世話人会の情報も伝えることができました。今までいろいろな形で拡大を取り巻く現状を伝える試みをしましたが、空回りの感もあります。もちろん人数が多すぎでは「船頭多くして・・・」の例えになりますが。拡大が問題を抱えている今だから、できるだけ多くの人材、情報、意見を集め、みんなの問題として考え未来に繋げなければとの思いを強くします。

柏市拡大写本サークル 傍島純子

2019 年度文科省「教科書デジタルデータ提供に関する調査研究」 「中長期的な教科書用特定図書の内蔵方法検討委員会」 東京大学先端科学技術センター

デジタルデータを利用して教科用特定教科書を作製する音声、点字、拡大等各分野（Daisy、エッジ、アクセスリーディング、愛媛大学、広島大学など）の代表、教科書協会関係者、国会図書館、点字図書館、Adobe、マイクロソフトなどの ICT 企業からと多彩な顔ぶれて 10 月 29 日(火) 第 1 回検討会がありました。第 1 回ということで、「各分野の製作工程と課題の共有」として各団体の報告、そしてよりよいデータの在り方についての意見交換がありました。拡大からは教科書見本を持って行き、それを見せながら拡大教科書について説明し、あらかじめデジタルデータについて各グループから集めた意見や要望を伝えてきました。初めて拡大教科書を見たと言う声も多く聞かれました。音声関係の先端技術を投入した機器を研究開発して教科書を作りクラウドで配信もするといった団体が多く、そこで飛び交う専門用語に目を白黒させるだけでしたが、視覚障害者を含め、広く発達障害などのお子さんたちに福音となる近い未来を感じました。

柏市拡大写本サークル 傍島純子

教科書協会との意見交換会 11/14 教科書会館

この意見交換会でお聞きした内容から 2 点ご報告します。
まずは、来年度改訂される小学校の教科書には QR コードが掲載され ICT 機器等で読み込むと出版社のサイトにつながり、学習を深めるための資料や動画を閲覧できるようになります。QR コードは出版社によって違いはあるものの、ページのタイトル横や脚注などに掲載されることが多いよう

です。レイアウト編集をする時に、位置に気をつけなければ…と思いました。各出版社のホームページに紹介されているので、興味のある方はご覧ください。

それから文科省内で、外国人児童生徒等における教科用図書の使用上の困難の軽減に関する検討会議が令和元年の夏より行われています。母国語ではない教科書を使つての学習をサポートするために、デジ教科書等を使うといった例が紹介されました。思い出したのは10月の世話人会でディスクレシアや学習障害等で、教科書の漢字すべてにルビを振ってほしいとの依頼について話し合ったことです。状況は違いますが、読み書きに困難を抱えていることは一緒だと思います。様々なサポート体制が構築されるといいですね。

以上2点で、環境の変化を痛感した一日となりました。拡大写本ボランティアとして何ができるのか、みなさんと考えていきたいと思います。




拡大写本グループ 赤いくつ 宮崎希代子

今後の予定

- ・令和元年度教科書デジタルデータ活用促進に関する検討会議
12月20日(金) 文部科学省旧庁舎 6階 第2講堂
- ・次回世話人会
12月18日(水) 東京都障がい者福祉会館 C1 13:00~

拡大 now & 編集後記

 現在のグループ数 42グループ

 編集後記

今年も後1ヶ月になってしまいました。また来年4月に向けて拡大教科書作製が始まります。この秋、教科書を作らないゆったりした時間を過ごただけに、また何かに追われてると感じる日々が戻ってきます。ぜいたくなもので、この緊張感がなくなってしまうのは怖いし、仕事もなかだらだら過ごすことも怖いと矛盾した自分に呆れています。でも、喜んで使ってくれるお子さんのために頑張らなくては！

傍島 純子